

## 中期効果に関する検討

東京大学大学院教育学研究科

体育科学講座・教育健康学

衛 藤 隆

### ■ はじめに

思春期保健・福祉体験学習（以下「体験学習」）の効果の評価するため、これまでに、学習直後にふれあい体験を体験した生徒に対し調査を行う方法（短期効果）、成人式等ふれあい体験学習から数年を経て調査を行う方法（長期効果）が試みられてきた。時間的にみてこれらいずれとも異なる実施から約6ヵ月後の時点で、対象者に調査を実施し、体験学習を受けたことに対する中期効果の評価を試みた。

### ■ 対象と方法

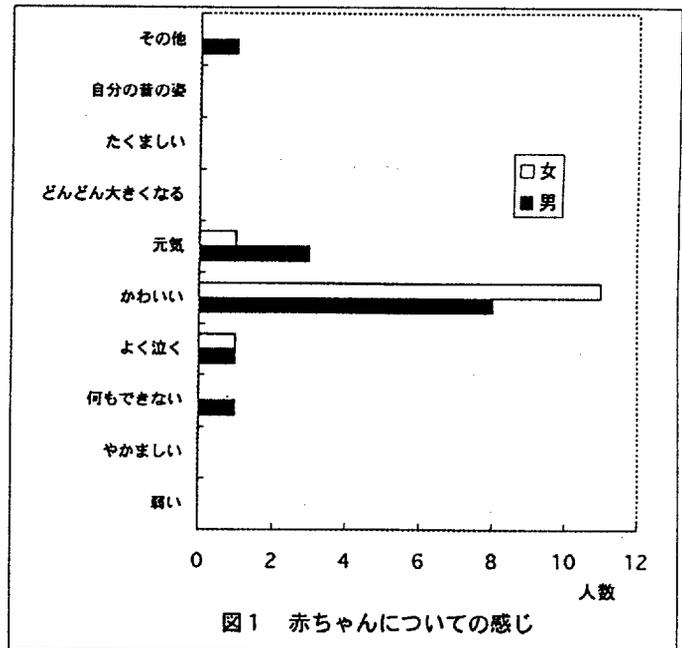
対象は沖縄県南西諸島の一離島である多良間島（宮古郡多良間村）の多良間中学校3年生27名（全員）である。同村の唯一の中学校である多良間中学校では、平成7年度より初めて思春期保健・福祉体験学習を中学校3年生において実施することとなり、事前学習の後、同年7月19日に同村中央公民館にて実施された乳幼児健康診査に3年生全員が参加して実際に乳児とふれあう体験をもつ学習が行われた。

上記体験学習から6ヵ月を経た平成8年1月、自記式質問紙による体験学習後の調査を実施した。調査票は、清水らが作成した短期効果判定のための体験後用調査票（「赤ちゃんとのふれあいを体験して」）を用いた。学校長の許可を得て、生徒の了解を得た上で授業時間を利用して調査を実施した。回収率、有効回答率共に100%であった。

### ■ 結果

「赤ちゃんについて感じるイメージ」は「かわいい」が最も多く、「元気」、「よく泣く」がこれに続いた。（図1）

「赤ちゃんの連想」は「おむつ」、「お乳」が多く、



「小猿」がこれらに続き、他は分散した回答であった。（図2）

「赤ちゃんを育てることへの思い」は、「忙しいと思った」が最も多く、以下「楽しいと思った」、「めんどろだと思った」、「幸せだと思った」、「わからない」、「素晴らしいと思った」という順であった。（図3）

「育児中の母をみて思うこと」については、「大変そうだったと思った」が最も多く、「忙しそうだった」、「幸せそうだった」、「いきいきしていると思った」と続き、次いで「偉いと思った」と答えていた。（図4）

「親が子どもを育てることについてどのように思うようになったか」という点については、「ありがたいことだと思う」が最多で、「素晴らしいことだと思う」、「親の当然すべきことだと思う」がこれに続き、さらに「わからない」、「親の責任だと思う」、「あたり前のことだと思う」と続いた。（図5）

「親」についてどのように思うようになったか」という問いに対しては、「うるさい」と「ありがたい」が1位を分け合い、「一緒にいると安心感があ

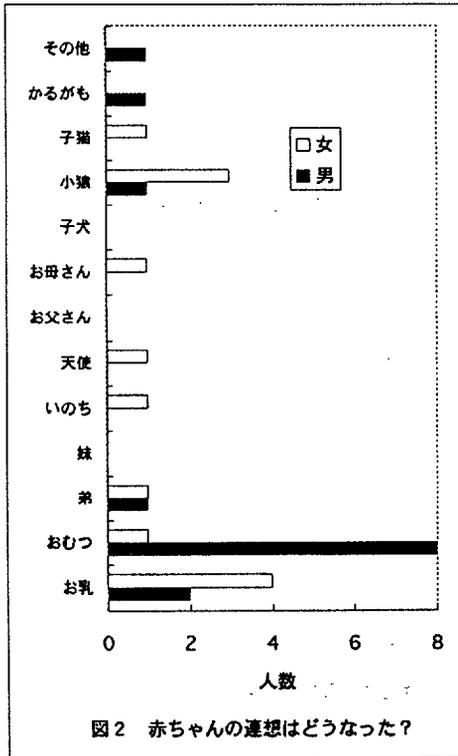


図2 赤ちゃんの連想はどうなった?

る」、「わからない」、「わずらわしい」が続いた。(図6)

「赤ちゃんをどのように思ったか」に対しては、「好き」、「非常に好き」が大半を占めたが、「あまり好きでない」と答える者が3名いた。(図7)

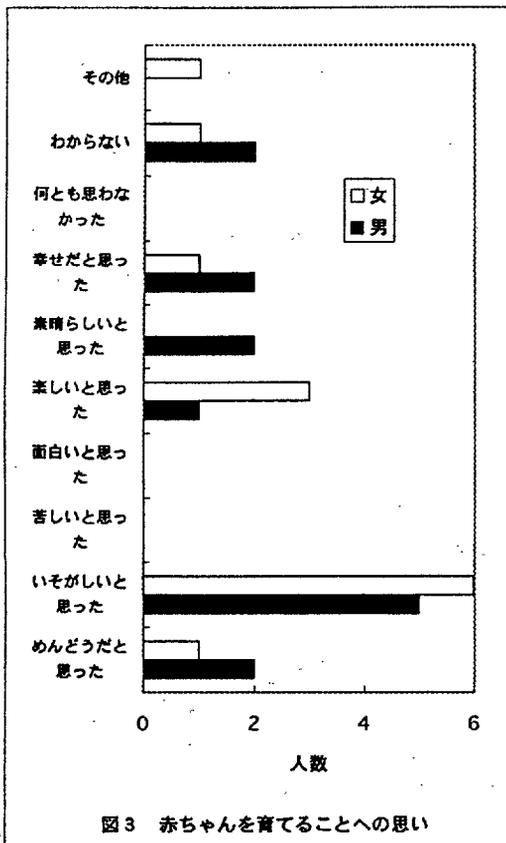


図3 赤ちゃんを育てることへの思い

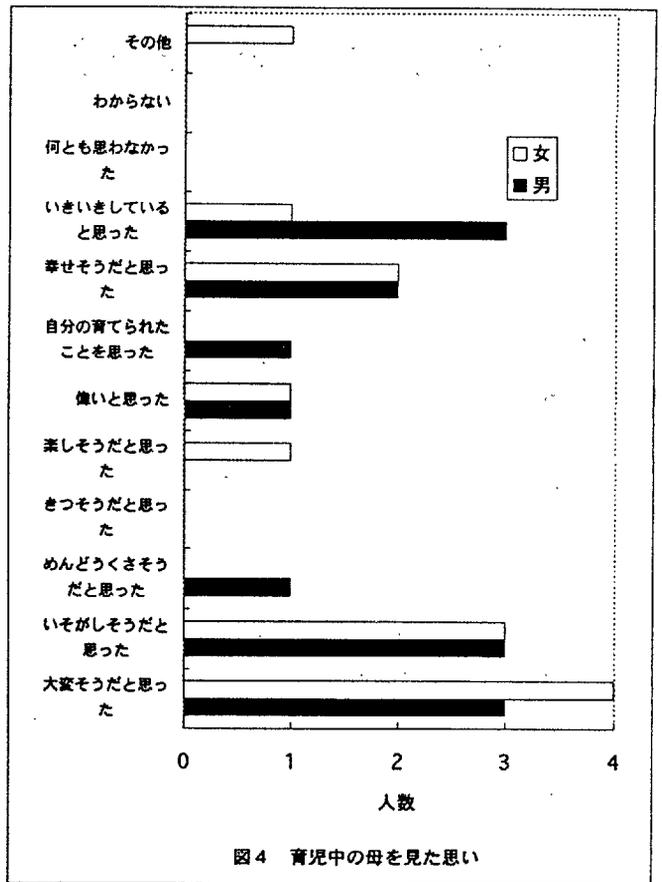


図4 育児中の母を見た思い

「赤ちゃんを抱っこした思い」については、「楽しかった」、「非常に楽しかった」が最多で、ごく少数「こわかった」(2名)、「いやだった」(1名)という回答がみられた。(図8)

「赤ちゃんとのふれあい体験をどのように思ったか」という問いに対しては、「またしてみたい」が最多で、「また是非してみたい」、「あまりしたくない」、「わからない」と続いた。「もうしたくない」と答えた者はいなかった。(図9)

赤ちゃんとのふれあいを体験した感想についての自由回答は表の通りで、赤ちゃんの印象について記した者が最も多く、その大多数は「かわいい」と書いていた。また、体験学習の印象について率直に語った者も多く、「楽しかった・よかった」、「赤ちゃんを理解できた」と述べ、肯定的に体験学習をとらえた回答が多かった。そのほか、子どもへのかかわりについて、女子で「育児は大変である」と答える者が目立った。

### ■ 考 察

本調査の対象者では、体験学習前と直後に今回の調査と対応した調査を実施していないので、この3つの時点における生徒の考え方・感じ方の比較を行うことは厳密にはできない。体験学習直後

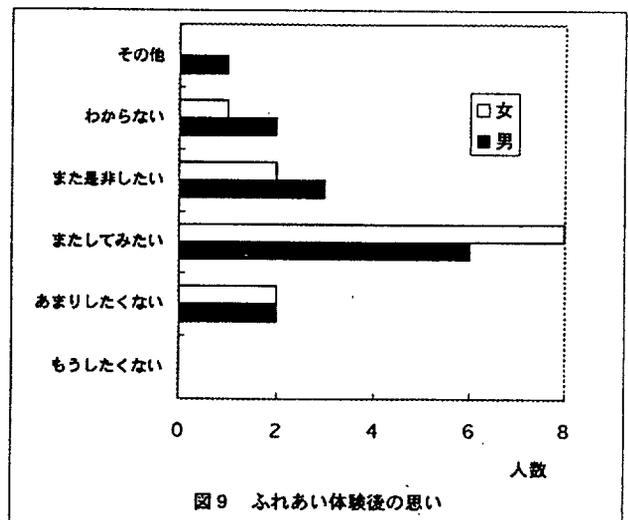
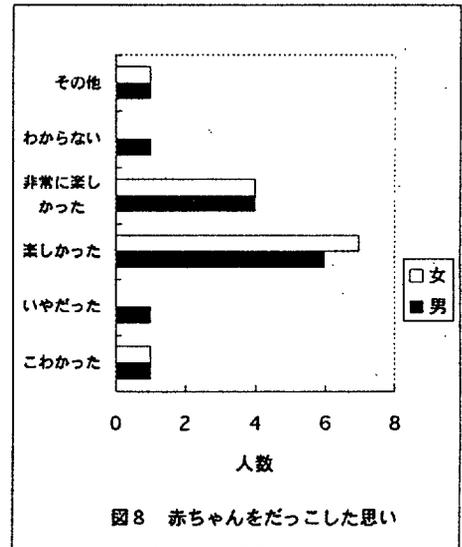
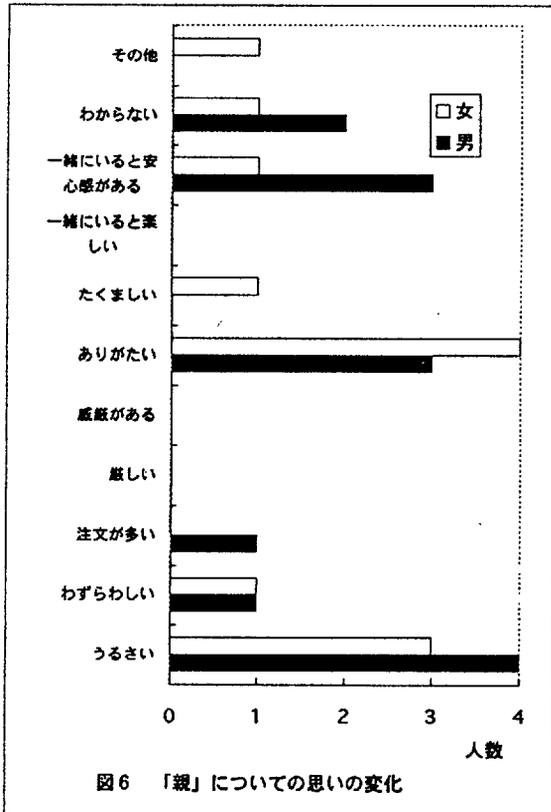
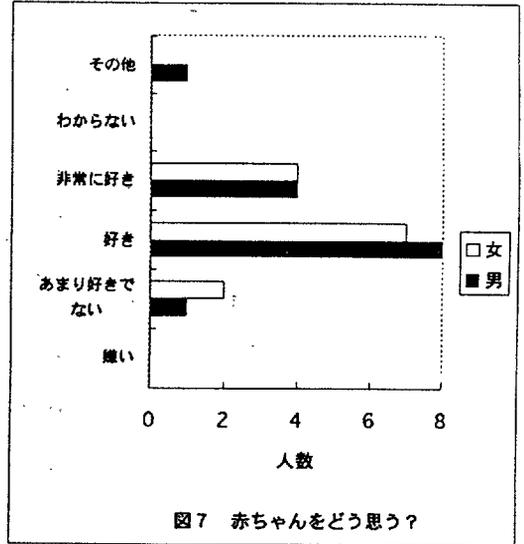
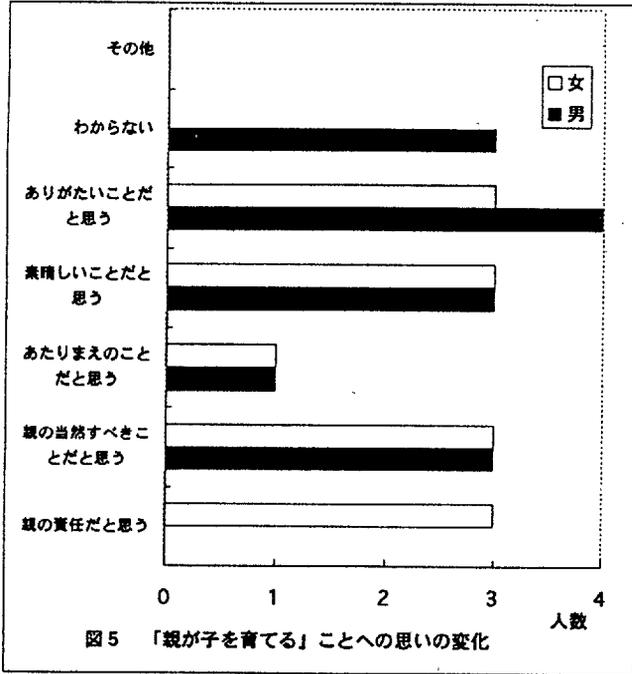


表 ふれあい体験学習から6ヵ月後の印象のまとめ  
—沖縄県多良間中学校3年生への質問紙調査結果—

大項目	小項目（具体的感想）	男	女	合計
赤ちゃんの印象	かわいい	3	3	6
	安心感がある	1	0	1
	だっこした時緊張した	0	1	1
	赤ちゃんは苦手・うるさい	1	1	2
	興味ない	1	0	1
体験学習の印象	楽しかった・よかった	2	2	4
	健診の様子を理解できた	1	0	1
	赤ちゃんを理解できた	3	1	4
	今後も希望する	0	2	2
自分自身と対比して	幼少時を思い出した	1	0	1
	兄弟姉妹がいる人がうらやましい	2	0	2
子どもへのかかわり	世話をしたい	0	2	2
	子どもがほしい	0	2	2
	育児は大変である	0	4	4
その他	子守りしたくない	1	0	1
	特になし	0	1	1

には、自由記載の感想文を書いてもらっているが、そこでは赤ちゃんに対する新鮮な印象が綴られている。概して、今まで知らなかった赤ちゃん、育児、そして親であること等に思いを巡らせ、この体験を肯定的にとらえていた。

昨年度の本研究班で実施した短期的効果についての調査結果と対比して考えると、「赤ちゃんについてのイメージ」や「赤ちゃんの連想」等については、6ヵ月経ると再び元に戻る傾向、すなわち表面的な回答をする傾向が認められるようである。

一方、育児中の母親をみて思うことは「大変そうだ」と思いつつも、「いきいきとして」、「幸せそうだ」と思う者が目立ち、赤ちゃんに対する思いよりもっと身近にとらえている様子がうかがえた。「親が子を育てることへの思いの変化」でも、積極的評価が目立っており、親を必ずしも受身にはとらえない考え方が芽生えていることを思わせる。「親」についての思いの変化に関しては、体験学習の影響以上に、日々の生活で自身の親と接して生ずる感想が前面に出てきている様子がうかがわれた。

体験学習を通して感じたことを自由に書かせた項目では、全体として体験学習についてよく覚えており、赤ちゃんについて肯定的に答える者が多かったことは、6ヵ月経ても学習の影響が残存していることを示していると思われた。興味深いのは、子どもへのかかわりを求める感想、すなわち「世話をしたい」、「子どもがほしい」等は、圧倒的に女子に多くみられる傾向を示していたことである。一方、これらの女子で、「育児は大変である」という答も目立ち、現実的に自らの将来に関係づけて体験学習をとらえていることがうかがわれた。一方、男子では、体験学習を通して自らの幼児期を

想起したり、弟妹の存在の有無という形で子どものことを考えようとする傾向がうかがえたのは興味あることである。

少数の対象例についての調査ではあるが、離島という共通点の多い環境にて、乳幼児期より互いに親密な関係を持ちながら育った中学生の生徒たちにおいても、赤ちゃんや親、育児に対して様々なとらえ方が認められ、微妙な性差も認められたのは興味深いことである。ほとんどの生徒にとって、この体験学習は新鮮な体験となり、直後ほど鮮やかな印象ではないにしても、6ヵ月を経ても育児や親についての考え方が育まれていることが認められた。今回の調査結果を、体験学習という介入単独の評価に直接的につなげることは困難であるが、以上の諸点が明らかとなったことは、思春期男女の教育の中に体験学習を位置づけ、今後共研究を続けていくことの必要性を示したといえる。

## ■ まとめ

沖縄県南西諸島の一離島である多良間島の中学校3年生27名に対し、体験学習実施から約6ヵ月後に、調査を実施し、体験学習を受けたことの影響を評価することを試みた。ほとんどの生徒において、6ヵ月を経ても育児や親についての考え方が育まれていることが認められた。

## ■ 参考文献

- 1) 清水凡生. 思春期体験学習の短期・長期効果. 厚生省心身障害研究「望まない妊娠等の防止に関する研究」平成6年度研究報告書. 主任研究者: 林謙治, 1996; 286-289



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### まとめ

沖縄県南西諸島の一離島である多良間島の中学校 3 年生 27 名に対し、体験学習実施から約 6 カ月後に、調査を実施し、体験学習を受けたことの影響を評価することを試みた。ほとんどの生徒において、6 カ月を経ても育児や親についての考え方が育まれていることが認められた。